

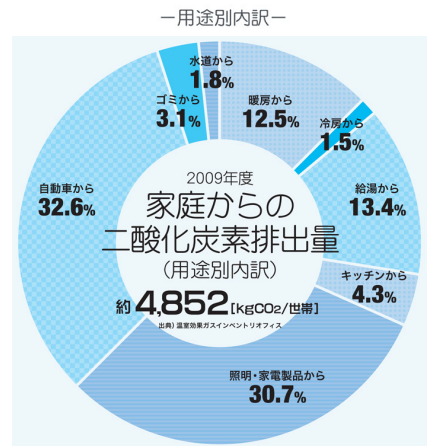
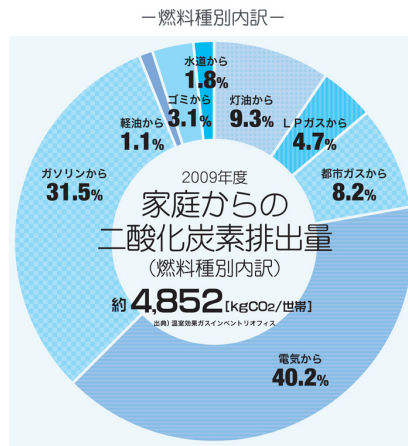
「二酸化炭素は、どこから出ているの？」

私たちは、暮らしの中でどこから二酸化炭素を出しているのでしょうか。

右の図は、家庭でエネルギーを消費することによって排出される一世帯当たり一年間の燃料種別と用途別の二酸化炭素排出量内訳を示しています。

この中で燃料種別では、電力やガソリンの消費が大きな割合を占めていることがわかります。また、用途別では、暖房や給湯、照明・家電製品、自動車からの排出が多いことがわかります。

エネルギーの種類や機器の特性をよく理解して、賢く省エネをしましょう。



全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<http://www.jccca.org/>) より

1年間でこんなに差が出る! 省エネライフ知って得する情報!

リビングで

石油ファンヒーター 設定温度は20℃を目安にする

外気温6℃の時、暖房の設定温度を 21℃から 20℃にした場合
(使用時間:9時間/日)
石油 10.22L → 約 780 円 → CO₂ 25.4kg 削減



電気カーペット 設定温度は低めに

3畳用で、設定温度を「強」から「中」にした場合(1日5時間使用)
電気 185.97kWh → 約 4,090 円 → CO₂ 65.3kg 削減

照明器具 電球型蛍光ランプに付け替える

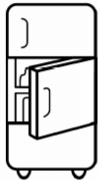
54Wの白熱電球から12Wの電球型蛍光ランプに交換した場合
電気 84.00kWh → 約 1,850 円 → CO₂ 29.5kg 削減



キッチンで

電気冷蔵庫 冬場は冷蔵強度を弱くする

周囲温度 22℃で、設定温度を「強」から「中」にした場合
電気 61.72kWh → 約 1,360 円 → CO₂ 21.7kg 削減



電気冷蔵庫 壁から適切な間隔で設置する

上と両側が壁に接している場合と、片側が壁に接している場合との比較
電気 45.08kWh → 約 990 円 → CO₂ 20.4kg 削減

ガス給湯器 食器を洗うときは低温にする

65Lの水道水(水温 20℃)を使い、湯沸かし器の設定温度を 40℃から 38℃にし、2回/日手洗した場合。(使用期間:冷房機関を除く 253日)
ガス 8.80m³ → 約 1,360 円 → CO₂ 15.8kg 削減

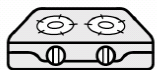
電気ポット 長時間使用しないときはコンセントからプラグを抜く

ポットに満タンの水 2.2L を入れ沸騰させ、1.2L を使用後、6時間保温状態にした場合と、プラグを抜いて保温しないで再沸騰させて使用した場合の比較
電気 107.45kWh → 約 2,360 円 → CO₂ 37.7kg 削減
※最近魔法瓶の機能が付いた省エネ型の電気ポットもあります



ガスコンロ 炎が鍋底からはみ出さないように調節する

水 1L(20℃程度)を沸騰させる時、強火ではなく中火にした場合
ガス 2.38m³ → 約 400 円 → CO₂ 5.4kg 削減



浴室・洗面所で

風呂給湯器 入浴は間隔をあけずに

40.5℃(200L)のお湯を 45℃になるまで追い炊きする場合(使用回数 1回/日)
ガス 38.20m³ → 約 6,490 円 → CO₂ 87.0kg 削減



風呂給湯器 シャワーはお湯を流したままにしない

45℃のお湯を流す時間を1分間短縮した場合
ガス 12.78m³ → 約 2,170 円 水道 4.38m³ → 約 1,000 円
合計 約 3,170 円 → CO₂ 29.1kg 削減



車を使うとき

自動車 ふんわりアクセル「eスタート」

普通の発進より少し緩やかに、5秒間で20km/h程度に加速する
ガソリン 83.6L → 約 11,110 円 → CO₂ 194.0kg 削減



自動車 加減速の少ない運転

車間距離は余裕をもって、交通の状況に応じ、速度変化を少なくする
ガソリン 29.3L → 約 3,900 円 → CO₂ 68.0kg 削減

自動車 早めのアクセルオフ

エンジンブレーキを使うと、燃料供給が停止されます
積極的に活用しましょう
ガソリン 18.1L → 約 2,410 円 → CO₂ 42.0kg 削減



豆知識

知らないうちに使っている!待機時消費電力

夜、照明を消してさあ寝ようというとき、リモコン操作のテレビや VTRから使っていないのに小さな光が出ているのをご存知でしょうか。今まさに電力が消費されている証拠、それが待機時消費電力です。

家庭で消費する電力のうちなんと1割近くを待機時消費電力が占めています。待機時消費電力を減らすには、使っていない機器はこまめに主電源を切り、コンセントからプラグを抜く習慣をつけることが重要です。無駄に電源を入れているか、身のまわりの電気製品をチェックしてみましょう。

長い目で見るとお得!省エネラベリング制度

エアコンや冷蔵庫などの家電製品を購入する際は、購入価格だけにとらわれてはいけません。最初は安く済んでも省エネ性能が悪いと電気代が高ついて、長期間使ううちにトータルの費用が逆転してしまうこともあります。

そこで、家電製品を購入する際は、どの製品が省エネ性能に優れているかを一目で見分けることのできる「省エネ性マーク」に注目です。ぜひ参考にしてください。

